

## 第 39 回大分 NST 研究会報告

2025 年 1 月 18 日に J:COM ホルトホール大分にて第 39 回大分 NST 研究会を開催させていただきました。今回のメインテーマは「多職種連携～急性期から在宅まで～」として、188 名と多くの参加者があり、活発な議論が行われました。

一般演題では、坂ノ市病院の管 聡先生、佐賀関病院の中野広美先生に座長をしていただき、下記の 6 題の発表がありました。全てが異なる職種からの発表であり、今回のメインテーマにふさわしい内容となり、有意義な議論をすることができました。

- ① 銅欠乏性貧血を来した経管栄養の進行期神経・筋疾患 6 例の検討  
国立病院機構西別府病院 医師 中村憲一郎
- ② 脂肪乳剤の適正使用に向けた薬剤師の取り組み  
社会医療法人敬和会大分岡病院 薬剤師 野村一馬
- ③ 脳梗塞後の繰り返される誤嚥性肺炎患者に対し経口摂取継続し栄養維持に繋がった一例  
臼杵市医師会立コスモス病院 言語聴覚士 荻平拓海
- ④ 栄養サポートチーム対応患者への周術期等口腔機能管理における臨床学的検討  
社会医療法人敬和会大分岡病院 歯科衛生士 阿南智子
- ⑤ 手術をうける高齢者の術前の嚥下機能の状態－嚥下機能低下の関連要因－  
大分赤十字病院 看護師 東玲子
- ⑥ 本人、家族の「食べたい、食べさせたい」という思いに寄り添いチームで取り組んだ症例  
医療法人輝彩ヒカリノ診療所 管理栄養士 廣瀬明子

基調講演は坂ノ市病院の管 聡先生に座長をしていただき、社会医療法人敬和会 けいわ訪問看護ステーション大分在宅事業管理部長の佐々木真理子先生に「急性期から在宅まで多職種、他事業所とつなぐ・つながる療養者の食支援」についてご講演いただきました。在宅での支援の状況を知ることができ、これからの支援には情報共有が重要であり、地域全体で協力して取り組まなければならないことを再認識しました。

特別講演は昭和大学薬学部社会健康薬学講座社会薬学部門および臨床薬学講座臨床栄養代謝学部門の客員教授で、簡易懸濁法の第一人者である倉田なおみ先生に「摂食嚥下障害と錠剤（薬）嚥下障害」についてご講演いただきました。摂食嚥下障害については様々な取り組みが行われていますが、錠剤（薬）嚥下障害についてはほとんど知られていません。これからの NST 活動において錠剤（薬）嚥下障害は重要な課題であり、積極的に取り組んでいかなければならないことを認識させられました。

座長の先生方、発表とご講演をいただきました先生方、事務局および世話人の先生方に深く感謝申し上げます。また、共催および後援の関係者の方々に御礼申し上げます。皆様のご協力により、第 39 回大分 NST 研究会を無事終えることができたと考えています。これから益々高齢化が進み、NST 活動は重要となってきます。本研究会が大分県内に栄養治療を普及し、更に発展していくことを祈念して報告といたします。

【当番世話人】佐藤 博



【一般演題座長】管 聡 先生 中野 広美 先生



【一般演題演者】

中村 憲一郎 先生



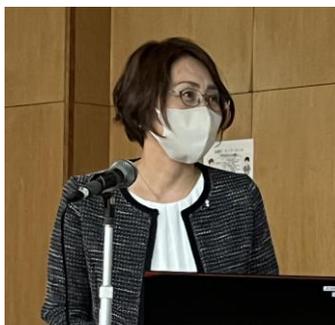
野村 一馬 先生



萩平 拓海 先生



阿南 智子 先生



東 玲子 先生



廣瀬 明子 先生



【基調講演講師】

佐々木 真理子 先生



【特別講演講師】

倉田 なおみ 先生



